

教育研究業績概要

氏 名 三輪 高市 ()		
研究分野	所属学会等の名称	
精神衛生薬学、医療薬学、臨床薬理学に関する実務	日本医療薬学会、日本薬学会、日本薬剤師会、日本老年薬学会、日本精神薬学会、日本社会精神医学会、日本精神神経学会、日本神経精神薬理学会、日本医薬品安全性学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、精神科臨床薬学研究会、みえ精神科臨床研究会、	
担当授業科目名 地域医療論、早期体験学習、事前実習、病院実務実習、薬局実務実習、実践処方解析学、薬局経営学、薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、チーム医療Ⅰ、チーム医療Ⅱ、卒業研究、薬学総合演習、精神衛生薬学特論		
教育上の能力に関する事項		
事 項	年	概 要
1 教育の実践例、教育に関する評価等		
1) 本学大学院院生を対象に1週間に1度のゼミを実施	2014～	精神科関連（特にうつ病、認知症、統合失調症）の論文紹介を中心にゼミを実施。臨床と基礎の両面から精神科薬物治療を理解・実践できる人材作りを目指している。
2) 三重大学附属病院における当大学の学生対象の実務実習期間において精神科領域の実習プログラムを実施	2014～	精神科領域の学生の理解を深める目的で、実務実習の期間内に「スモールグループディスカッション（SGD）＋精神科疾患の講義＋精神科病棟での実習＋ポストSGD」のプログラムを実施している。
3) 当大学大学生の卒業論文にて精神科用剤に対する薬剤師の印象や理解度などを中心に調査を実施	2013～	精神科領域薬剤の適正使用を目指し、臨床および基礎における研究を実施している。
4) 大学1年生を対象とした教育として早期体験を実施	2013～	薬学部の1年生を対象として臨床現場を体験させる実習を実施している。対象施設は病院・保険薬局で、2016年度は介護保険施設における実習も実施している。
5) 大学1年生を対象とした教育として”チーム医療Ⅰ”および”チーム医療Ⅱ”の講義。	2014～	これまで、臨床現場で培ってきた知識を基に大学一年生に対して、チーム医療の重要性などを講義している。
6) 精神衛生学の講義の実施	2014～	精神科専門薬剤師として培った経験・知識を基に大学院生に対して、精神科疾患の病態、薬物治療および薬物治療における患者対応等を講義している。

2 作成した教科書, 教材, 指導書等		
1) 精神科領域の服薬指導 Q&A(医薬ジャーナル)	2009	本書籍は精神科用薬を扱う薬剤師全般を対象とし、患者からの疑問への対応例を示し、また、薬剤師の抱えている精神科用薬に対する疑問に答えた。
2)精神科領域臨床検査ハンドブック (南山堂)	2009	本ハンドブックは精神科用薬の使用によって発現する臨床検査値の異常や臨床検査値異常時の対応の仕方などを示した。
3)精神科領域の服薬指導 Q&A 改訂版 (医薬ジャーナル)	2011	書籍は、1)の発売から2年の時を経て新たに薬価収載された精神科用剤の情報や精神科医療における新しいエビデンスを考慮して改定された。
4) スタートアップ服薬指導 (講談社)	2011	本書籍は、薬剤師の各領域における服薬指導の実践のための基本から高度に至るテクニックを紹介している。その中、高齢者および精神科疾患に対する服薬指導を中心に開設した。
5) 臨床精神薬学 (南山堂)	2013	本書籍は、精神科薬物療法認定薬剤師・精神科専門薬剤師の養成のためのテキストであり、精神科疾患に対する臨床対応について詳細に解説した。
6)腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト (じほう社)	2013	本書籍は、腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師の養成のためのテキストであり、腎疾患や各領域における腎臓障害時の薬物療法などについて詳細に解説しており、その中、精神科用薬の項を担当した。
7) 精神科：薬物治療の支援 (じほう社)	2013	本書籍は、精神科薬物療法認定薬剤師・精神科専門薬剤師の養成のためのテキストであり、精神科における疾患及び薬物治療、薬物モニタリング、チーム医療などについて詳細に解説した。
8) 精神科薬物療法トレーニングブック (じほう社)	2013	本書籍は、精神科薬物療法を理解するためのテキストであり、精神科における疾患及び薬物治療について具体的な症例をもとに自己学習やグループディスカッションも実施できるように解説した。
9)精神科医×薬剤師クロストークから読み解く (南山堂)	2014	本書籍は、精神科薬物療法を理解するためのテキストであり、精神科における疾患及び薬物治療について具体的な症例を提示し、医師と薬剤師の情報交換・ディスカッションの場面を設定して解説した。
10) 精神科外来ハイリスク薬ハンドブック (南山堂)	2014	本書籍は、ハイリスク薬のうち、精神科で用いられる薬剤について、保険薬局や新人の薬剤師が利用し易いようにまとめたハンドブックである。各薬剤群の冒頭には各病態に対する薬物治療の特徴や問題点などを解説した。
11)精神科領域の服薬指導 Q&A 改訂版 (医薬ジャーナル)	2017	本書籍は、3)の発売から6年の時を経て新たに薬価収載された精神科用剤の情報や精神科医療における新しいエビデンスを考慮して改定された。
12)医薬品副作用アセスメント (南山堂)	2018	本書籍では、医薬品の副作用についてのアセスメントについて、副作用の発見、情報収集、対策など一連の作業を解説している。精神科領域を担当した。
13) 精神科薬物療法マニュアル (南山堂)	2018	精神科用薬を扱う薬剤師全般を対象とし、薬物療法を実践するためのマニュアルとして作成された。
14) 知っておきたい臨床検査値第2版 (東京化学同人)	2019	臨床検査値に関する基本的な情報、疾患別の情報、専門科毎の情報など体系的にまとめた書籍として作成された。
15) 副作用・安全性ガイドブック	2021	本書籍は、医薬品の副作用および安全性についての情報を補完するために作成され、精神科領域を担当した。

<p>3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等</p>		
<p>1) 崇城大学薬学部共用試験 OSCE</p>	<p>2010</p>	<p>OSCE の評価者として調剤監査領域を担当した。</p>
<p>2) 当大学薬学部共用試験 OSCE の責任者</p>	<p>2013～</p>	<p>OSCE の実施責任者として OSCE 実施の計画・立案・実施に携わった。</p>
<p>3) 熊本大学にて薬学部学生や卒後薬剤師を対象とした教育講演会</p>	<p>2010～2011 : 4 回</p>	<p>6 年次生の学生および大学スタッフ向けに精神科の疾患や薬物治療について講演を行った。</p>
<p>4) 当大学薬学部の共用試験実施委員会副委員長</p>	<p>2013～</p>	<p>共用試験実施委員会副委員長として OSCE 担当者として OSCE 委員会を開催、運営している。</p>
<p>5) 当大学薬学部の国家試験・CBT 対策委員会の委員</p>	<p>2014～</p>	<p>国家試験・CBT 対策委員として学生の教育に携わっている。</p>
<p>6) 当大学薬学部の病院・薬局実務実習委員会の副委員長</p>	<p>2013～</p>	<p>病院。薬局実務実習委員会の副委員長として実務実習の円滑な実施に貢献している。</p>
<p>7) 当大学薬学研究科連絡委員会の委員</p>	<p>2014～</p>	<p>研究科連絡委員会の委員として大学院教育の運営に携わっている。</p>
<p>8) 当大学薬学部薬学教育構想委員会の委員</p>	<p>2014～</p>	<p>薬学教育構想委員会の委員として大学教育の将来構想について協議を行っている。</p>
<p>4) 薬剤師を対象とした研究会</p>	<p>2004～2013</p>	<p>・熊本県精神科病院薬剤師研究会：精神科病院に所属する薬剤師や大学関係者（学生含む）を対象に、精神科の薬物療法を中心に、処方解析のディスカッションを行う研究会である。2004 年 4 月から始まり、合計 33 回開催され、代表幹事を 8 年間担当した。</p>
	<p>2004～2013</p>	<p>・熊本県病院薬剤師会精神科部会研究会：熊本県病院薬剤師会に所属する薬剤師を対象に精神科で必要な情報の報告や業務の実態報告などの提供を行った。また、2006～2007 年には年間 4 回シリーズで精神薬理を中心とした教育講演を行った。</p>
<p>5) 精神科の研究会</p>	<p>2006～</p>	<p>・精神科臨床薬学研究会：全国の精神科病院に所属する薬剤師や大学関係者を対象とした研究会。総会員数は 1231 名で九州沖縄地区の幹事を 6 年間務めた。臨床研究や年間 2 回/福岡・鹿児島・沖縄の研究会を通じて薬剤師の育成などを行った。2013 年からは顧問として、会の運営等に関わっている。これまで、精神科における多剤大量療法の問題点を報告し、向精神薬の適正使用を訴えてきた。</p>
	<p>2016～</p>	<p>・みえ精神科臨床研究会：三重県における精神科医療に関わる職種を集めて症例検討を中心に意見交換ができる研究会を発足し、研究会を開催している。</p>
<p>6) 精神科の学会</p>	<p>2016～</p>	<p>・日本精神薬学会の理事として会の運営および後進の育成の任を担っている。また、編集委員長として学会誌の発行を始めとした編集関連を担当している。</p>
<p>7) 医薬品安全性に関する学会</p>	<p>2017～</p>	<p>・日本医薬品安全性学会の理事として会の運営および後進の育成の任を担っている。また、当学会の学術委員および試験作成委員を担当している。</p>
<p>8) 老年医療に関する学会</p>	<p>2017～</p>	<p>・日本老年薬学会の評議員であり、同学会の認定薬剤師制度の認定等を行う日本老年薬学会指導薬剤師の任を担っている。</p>

職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項

事 項	年	概 要
1 資格、免許、特許、受賞等		
薬剤師免許取得	1986	厚生大臣
臨床検査技師免許	1992	厚生大臣
博士（薬学）の学位取得	1992	直鎖飽和脂肪酸の行動薬理学、生化学的分析などの手法を用いて、精神活動に対する生体内での役割、(脂肪酸を中心に) 生体内物質の変動を明らかにし、「直鎖飽和脂肪酸の薬理作用」のタイトルで学位論文としてまとめ、学位取得を許可された。
特許)		
ピロリジノン誘導体	1995	特開平 7-252218：三井製薬工業における研究過程において発明されたピロリジノン骨格を有する新規な抗精神病薬および虚血性脳疾患治療薬についての特許
ピペラジン誘導体	1995	特開平 7-252219：三井製薬工業における研究過程において発明された $\sigma 1$ 受容体作用を有するピペラジン誘導体についての特許
	1995	特開平 7-252220：三井製薬工業における研究過程において発明された $\sigma 1$ 受容体作用を有するピロリジノン誘導体についての特許
	1997	特開平 9-40667：三井製薬工業における研究過程において発明された $\sigma 1$ 受容体拮抗作用を介した抗精神病作用を有する化合物、その製法および薬理作用についての特許
	1998	特開平 10-182602：三井製薬工業における研究過程において発明された $\sigma 1$ 受容体拮抗作用を介した抗精神病作用を有する化合物についての特許
精神科薬物療法認定薬剤師	2008	精神科勤務の薬剤師として薬物療法に関する専門的な知識を認められ、精神科薬物療法認定薬剤師の資格を授与された。
精神科専門薬剤師	2009	精神科勤務の薬剤師として専門的な知識、後進への教育能力を認められ、精神科専門薬剤師の資格を授与された。
医薬品安全性指導者	2015	病院勤務の薬剤師における薬物療法に関する専門的な知識を認められ、医薬品安全性指導者の資格を授与された。
医薬品安全性専門薬剤師	2015	病院勤務の薬剤師における薬物療法に関する専門的な知識を認められ、医薬品安全性指導者の資格を授与された。
日本老年薬学会指導薬剤師	2019	病院勤務の薬剤師における精神科薬物療法に関する専門的な知識を認められ、日本老年薬学会指導薬剤師の資格を授与された。
日本精神薬学会認定薬剤師	2020	精神科勤務の薬剤師として薬物療法に関する専門的な知識を認められ、日本精神薬学会認定薬剤師の資格を授与された。

	2014	三重県ひなが精神科薬剤師懇話会にて「薬理から考える抗うつ薬の指導と管理」と題して特別講演を行った。
	2014	DS フォーラムにて「認知障害から考える 統合失調症の薬物治療 — 鎮静系・非鎮静系薬を中心に —」と題して特別講演を行った。
	2014	松山県病院薬剤師会学術大会にて「薬理から考える抗うつ薬の指導と管理」と題して特別講演を行った。
	2014	CRC 研究会にて「統合失調症の薬物治療」と題して特別講演を行った。
	2014	精神科用薬に関わる医薬品安全管理研修会にて「リスクを考えた精神科用薬の使い方・指導の仕方」と題して特別講演を行った。
	2014	北東北精神科薬物療法研究会にて「ハイリスク薬としての向精神薬の管理・指導の考え方—ADHD 治療薬の患者指導例も含めて—」と題して特別講演を行った。
	2015	青森県精神科薬物療法研究会にて「精神科用薬と薬学教育」と題して特別講演を行った。
	2016	みえ精神科臨床研究会にて「精神科用薬と薬学教育」と題して講演を行った。
	2016	鈴鹿地区精神科懇話会にて「精神科における薬薬連携」と題して講演を行った。
	2016	三重県病院薬剤師会精神部会研究会にて「精神疾患と自殺」と題して講演を行った。
	2016	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会における教育シンポジウムにて「次世代を担う薬剤師をどう育成するか—大学教員（精神科専門薬剤師）の立場から—」と題してシンポジストとして講演した。
	2017	日本薬品安全性学会にて、精神科用薬の医薬品安全性のタイトルでシンポジウムをオーガナイズした。
	2017	九州看護講演会にて精神科薬物療法の基礎について特別講演を行った。
	2017	日本老年薬学会にて、高齢者における向精神薬の使い方について講演を行った。
	2017	日本医療薬学会にて、新コアカリキュラムにおける実務実習での精神科の役割についてシンポジストとして講演した。
	2018	日本医療薬学会にて、『医薬品副作用アセスメント』のシンポジウムタイトルの中で専門薬剤師に向けて「精神・神経障害アセスメント」についてシンポジストとして講演した。
	2019	日本精神神経学会にて、「向精神薬の重篤な副作用に対する薬剤師の取り組み」のタイトルでシンポジストとして講演した。
	2019	日本医薬品安全性学会にて、「大学教員における医薬品安全性学の取り組み」のタイトルでシンポジストとして講演した。
	2020	日本精神薬学会にて「精神科薬剤師による地域連携の実際」のタイトルでシンポジストとして講演した。
	2020	日本神経精神薬理学会にて「双極性障害治療におけるSDM」のタイトルでシンポジストとして講演した。
	2021	日本精神薬学会研修会にて「コロナ禍で増えてきた“うつ病”について考える」のタイトルで講師を務めた。
	2021	熊本女性薬剤師会講演会にて「コロナと自殺」のタイトルで講師を務めた。
みんなネットにてお薬相談実施	2016	全国家族連合会にてお薬相談を実施した。
久留米認知症ネットワーク研究会にて講演	2017	久留米認知症ネットワーク研究会にて「地域包括ケアにおける薬剤師の役割」と題して講演した。

研究業績等に関する事項

著書名, 報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書)				
・ レシピ：処方教室；医薬品の適正使用－不眠治療薬－	共著	2008	南山堂	三輪高市、三輪紀代子：7(2), 31-44
・ レシピ：処方教室；患者さんの質問に答える－睡眠薬の適正使用－	共著	2008	南山堂	三輪高市、大内清、境小緒里、三輪紀代子、佐藤弘希：7(2), 45-51
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2008	単著	2008	南山堂	三輪高市：59(4), 861-864
・ こころのりんしょうアラカルト	単著	2008	星和書店	三輪高市：27(3), 381-385
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2009	単著	2009	南山堂	三輪高市：60(4), P1641-1650
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2009	単著	2009	南山堂	三輪高市：60(4), P858-860
・ 精神科領域臨床検査ハンドブック	単著	2009	南山堂	三輪高市
・ 精神科医療の「困った」に答える	単著	2009	じほう	三輪高市：51(7), P47-52
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2010	単著	2010	南山堂	三輪高市：60(4), P65-73
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2010	単著	2010	南山堂	三輪高市：60(4), P972-974
・ レシピ：処方教室；医薬品の適正使用－認知症治療薬－	共著	2010	南山堂	伊藤文一、根岸大喜、三輪高市：9(3), P48-64
・ レシピ：処方教室；チームで取り組む認知症患者さんの薬物療法サポート	共著	2010	南山堂	三輪高市、中村祐、伊藤文一、根岸大喜：9(3), P66-71
・ NIKKEI Drug Information：抗うつ剤	単著	2010	日経 BP	三輪高市：10. P22-23
・ P-CUBE：処方切り替え時のチェックポイント	単著	2010	じほうヴィゴラス	三輪高市：7, P7
・ 薬局：薬学的管理を実践するノウハウ－認知症－	単著	2011	南山堂	三輪高市：61(13), P94-101
・ クリニカルファーマシスト：原疾患を見抜く	単著	2011	メディカ出版	三輪高市：3(2), P47-51
・ 薬局：下痢のリスクファクターと発生メカニズム	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(3), P34-39
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2011	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(4), P65-73
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2011	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(4), P1046-1048
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2011	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(4), P1092-1094
・ 病気と薬のパーフェクト BOOK2011	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(4), P1102-1104
・ 病院薬剤師業務推進実例集 2	共著	2011	日本病院薬剤師会	大森佐知子、三輪高市：P87-89
・ 症例チャートからみる薬物治療マネジメント	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(7), P267-282
・ 薬効モニタリングの実践	単著	2011	南山堂	三輪高市：62(9), P29-34
・ 精神科薬物療法と副作用－身体症状への対応	共著	2011	じほう	河野陽介、三輪高市：53(13), P95-99
・ 薬局：がん薬物療法の管理	共著	2012	南山堂	佐藤弘希、三輪高市：63, P125-135
・ 認知症患者の服薬支援と薬学管理のポイント	共著	2012	メディカ出版	河野陽介、三輪高市：4(2), P47-53
・ 認知症患者の服薬支援と薬学管理のポイント	共著	2012	メディカ出版	河野陽介、三輪高市：4(2), P54-58
・ 薬局：病気と薬のパーフェクト BOOK2012	単著	2012	南山堂	三輪高市：63(4), P71-79
・ 薬局：病気と薬のパーフェクト BOOK2012	単著	2012	南山堂	三輪高市：63(4), P848-851
・ 薬局：病気と薬のパーフェクト BOOK2012	単著	2012	南山堂	三輪高市：63(4), P889-890
・ 薬局：病気と薬のパーフェクト BOOK2012	単著	2012	南山堂	三輪高市：63(4), P893-895
・ レシピ：処方教室；アルツハイマー型認知症	共著	2012	南山堂	高田憲一、三輪高市：11(4), P371-394
・ 入院外来 薬物治療プラクティス	共著	2013	南山堂	内山道子、三輪高市、西山浩介：64(4), P504-519
・ 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト	単著	2013	じほう	三輪高市：P343-344、P. 346-347、P. 348-349、P. 350-351、P. 354-355
・ がん患者の精神症状へのアプローチ	単著	2013	じほう	三輪高市：55(12), P66-72
・ 薬と検査 2014	共著	2014	南山堂	内山道子、三輪高市、西山浩介：65(4), P554-572
・ 精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法	共著	2014	南山堂	三輪高市：P151-157
・ 透析患者のくすり大辞典	単著	2015	メディカ出版	三輪高市：P188-199
・ 透析患者のくすり大辞典	単著	2015	メディカ出版	三輪高市：P200-205
・ 今から使える高齢者の薬の使い方：睡眠薬	共著	2016	じほう	三輪高市、大井一弥：22(5), P547-549
・ 抗精神病薬を整理する	共著	2016	南山堂	三輪高市、中村友喜ら：15(3), P2-130

<ul style="list-style-type: none"> ・パパッと読めてちゃんと身につく：精神科薬物療法ガイド ・レシピプラス：認知症高齢者対応力 ・調剤と情報：認知症に関わろうと思いつながらなかなか踏み出せずにいた薬剤師がそろそろ本気で一歩を踏み出すための実践書 ・精神科用薬の医薬品安全性—抗精神病薬および抗うつ薬の有害作用を中心に— ・認知症の薬物治療 Q&A ・レシピプラス：抗精神病薬 ・精神科薬物療法ガイド ・レシピプラス：抗精神病薬 	<ul style="list-style-type: none"> 編著 編著 編著 単著 単著 編著 編著 編著 	<ul style="list-style-type: none"> 2016 2017 2017 2018 2018 2019 2021 2021 	<ul style="list-style-type: none"> じほう 南山堂 じほう社 医薬品安全性学会 じほう社 南山堂 じほう社 南山堂 	<ul style="list-style-type: none"> 三輪高市：P10、P32-36 三輪高市：P2-3、P8-39、P52-60、P70-78、P107-115 三輪高市：P3、P69-71 三輪高市：3(2)、69-79 三輪高市：24(1)、59-64 以降1年間連載 三輪高市：P8-31、P50-64、P54-63 三輪高市：P63-68 三輪高市：P14-27、P45-51、P54-63
学術論文 学会発表等の題名	発表者名	発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等		
(学術論文) <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症患者の薬物治療に関する処方実態調査：精神科臨床薬学研究会会員病院9施設における2005年の調査結果から ・弓削病院における aripiprazole 採用後の抗パーキンソン病薬処方内容の推移 ・精神科におけるメタボリックシンドロームの現状 ・国内における入院中の統合失調症患者の薬物療法に関する処方調査 2006 ・Prescription Profiles for Pharmacological Treatment of Japanese Inpatients with Schizophrenia.: Comparison Between 2007 and 2009. ・国内における入院中の統合失調症患者の処方実態調査：2008年の全国多施設共同処方調査研究 ・Effects of antipsychotic polypharmacy on side-effects and concurrent use of medications in schizophrenic outpatients. ・国内における入院中の統合失調症患者の処方実態調査 2011年—新規調査項目 BMI、心電図異常に関する検討を中心に— ・リスペリドン持効性注射剤上市後の持効性注射剤の処方動向—2010年および2011年の全国多施設処方実態調査研究より— ・モンテカルロ・シミュレーションを用いたバレニクリン酒石酸塩の腎機能および体重に応じた投与量の検討 ・統合失調症入院患者の薬物治療に関する処方実態調査(2011年)：全国149施設の調査から 	<ul style="list-style-type: none"> 吉尾隆、黒沢雅広、杉村和枝、中川将人、井出光吉、宇野準二、宮本直治、梅田賢太、三輪高市、天正雅美 三輪高市、池田倫子、相澤明憲、佐藤弘希、小田切陽子 山田順子、三輪高市、池田倫子、三村絵美子、小川聡美、田中佐知、姫井美和子、小田切陽子、佐藤弘希、河野陽介 吉尾隆、宇野準二、中川将人、長谷川毅、杉村和枝、梅田賢太、三輪高市、稲垣中、稲田俊成 T. Yoshio, T. Inada, J. Uno, T. Miwa, K. Kitagawa, Y. Miyahara, K. Umeda, T. Kato, A. Inagaki, T. Nabeshima 宇野準二、谷藤弘淳、柴田木綿、加藤剛、梅田賢太、三輪高市、稲垣中、稲田俊也、吉尾隆 Y. Hashimoto, J. Uno, T. miwa, M. Kurihara, H. Tanifuji, M. Tensho 黒沢雅広、天正雅美、谷藤弘淳、加藤剛、宇野準二、梅田賢太、三輪高市、野田幸裕、吉尾隆 柴田木綿、宇野準二、加藤剛、長谷川毅、黒沢雅広、三輪高市、梅田賢太、天正雅美、野田幸裕、吉尾隆 林雅彦、八重徹司、柴田和彦、三輪高市、森尚義、大井一弥、平田純生 野田幸裕、天正雅美、宇野準二、黒沢雅広、高橋結花、加藤剛、中川将人、宮原佳希、本多智子、三輪高市、柴田木綿、吉尾隆 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床精神薬理、10(9)、P85-95、2007 臨床精神薬理、12(6)、P1249-1252、2009 九州薬学会会報、63、P51-54、2010 臨床精神薬理、13(8)、P1535-1545、2010 Hum. Psychopharmacol. Clin. Exp.、Online Library、2011 臨床精神薬理、15、P1231-1240、2012 Psychiatry and Clinical Neurosciences.、66(5)、P405-410、2012 臨床精神薬理、16、P1041-1050、2013 臨床精神薬理、17：P881-891、2014 日腎薬誌、4(1)：P3-8、2015 日社精医誌、24、P349-359、2015 		

<ul style="list-style-type: none"> Development of the simultaneous LC/MS/MS analysis method for donepezil and memantine in the serum of patients with Alzheimer's disease. アルツハイマー型認知症患者における認知症治療薬と向精神薬の適正使用に関する処方調査。 精神科用薬の医薬品安全性—抗精神病薬および抗うつ薬の有害作用を中心に— 精神科医療におけるアウトリーチと薬剤師の役割 認知症患者に対して薬剤師として実践したい服薬の支援と管理について 	<p>T Nakamura, T. Fujisawa, M. Morikawa, S. Kawanishi, T. Miwa</p> <p>中村友喜、三輪高市、矢下里美、嶋田真一、坂晋、川西正祐、森川将行</p> <p>三輪高市</p> <p>三輪高市、中村友喜</p> <p>三輪高市</p>	<p>Japanese Society of Drug Safety, 3(1), 2017</p> <p>日本病薬剤師会雑誌, 54(1)</p> <p>日本医薬品安全性学会会誌、3(2)、2018</p> <p>医薬ジャーナル、54(4)、2018</p> <p>日本薬剤師会会誌、71、2018</p>
<p>(学会発表等)</p> <ul style="list-style-type: none"> アリピプラゾール採用後の抗精神病薬処方内容への影響～抗コリン薬使用状況の変化を中心に～ 精神科における処方調査；統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2007年）～全国100施設の調査から～その1 精神科における処方調査；統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2007年）～全国100施設の調査から～その2 精神科におけるメタボリックシンドロームの現状 保険薬局における統合失調症患者の薬物治療に関する処方内容及び抗パーキンソン病薬の使用状況調査 当院における同意取得のためのアプローチ 精神科における処方調査；統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2008年）その1 精神科における処方調査；統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2008年）その2 保険薬局におけるうつ病患者を対象とした喫煙調査 精神科における処方調査；統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2009年）～全国152施設の調査から～その1 精神科における処方調査；統合失調症患者の薬物療法に関 	<p>三輪高市、相澤明憲、佐藤弘希、小田切陽子</p> <p>宇野準二、三輪高市、黒沢雅広、杉村和枝、中川将人、井出光吉、長谷川 毅、宇野準二、宮本直治、梅田賢太、天正雅美、吉尾隆</p> <p>三輪高市、宇野準二、黒沢雅広、杉村和枝、中川将人、井出光吉、長谷川 毅、宇野準二、宮本直治、梅田賢太、天正雅美、吉尾隆</p> <p>山田順子、三輪高市、池田倫子、三村絵美子、小川聡美、田中佐知、姫井美和子、小田切陽子、佐藤弘希、河野陽介</p> <p>河野陽介、小田切陽子、佐藤弘希、岡山善郎、山田順子、三村絵美子、三輪高市、池田倫子、丸山徹</p> <p>花谷弘子、小澄敬子、黒肥地樹、津留圭子、三輪高市、西山浩介</p> <p>谷藤弘、黒沢雅広、杉村和枝、中川将人、加藤剛、井出光吉、長谷川 毅、宇野準二、宮本直治、吉本孝、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、吉尾隆</p> <p>柴田木綿、黒沢雅広、谷藤弘、杉村和枝、中川将人、加藤剛、井出光吉、長谷川 毅、宇野準二、宮本直治、吉本孝、梅田賢太、北川航平、三輪高市、天正雅美、吉尾隆</p> <p>河野陽介、佐藤弘希、山本巖、伊藤徳子、岡山善郎、大森佐知子、三村絵美子、三輪高市、池田倫子、丸山徹</p> <p>北川航平、谷藤弘、黒沢雅広、杉村和枝、中川将人、加藤剛、井出光吉、長谷川 毅、宇野準二、本多智子、吉本孝、宮原佳希、梅田賢太、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、吉尾隆</p> <p>宮原佳希、谷藤弘、黒沢雅広、杉</p>	<p>第104回日本精神神経学会、2008、東京</p> <p>第104回日本精神神経学会、2008、東京</p> <p>第104回日本精神神経学会、2008、東京</p> <p>第41回日本薬剤師会学術大会、2008、宮崎</p> <p>第41回日本薬剤師会学術大会、2008、宮崎</p> <p>第8回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2008、金沢</p> <p>第105回日本精神神経学会、2009、神戸</p> <p>第105回日本精神神経学会、2009、神戸</p> <p>第71回九州山口薬学大会、2009、大分県</p> <p>第106回日本精神神経学会、2010、広島</p> <p>第106回日本精神神経学会、2010、広</p>

<p>する処方実態調査（2009年）～全国152施設の調査から～その2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険薬局における抗精神病薬の服薬指導ツールの作成 ・新規抗うつ薬ミルタザピンに対する有用性評価 ・Survey of Prescription for 2nd generation antipsychotics in inpatients with Schizophrenia in Japan: A Nationwide Multiple-center Survey on Prescriptions in 2010 ・Effects of antipsychotics polypharmacy on side effects, subjective symptoms, and concurrent medications in schizophrenic patients. ・統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査(2010年)～ 全国163施設の調査から ～ その1 ・統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査(2010年)～ 全国152施設の調査から ～ その2 ・当院における統合失調症の入院患者を対象とした治験の取り組みについて ・被験者リクルートのためのCRCの役割と可能性 ・うつ病治験における補助ツールの紹介 ・抗うつ薬ミルタザピンの服用初期の脱落原因である傾眠に対して服薬指導が与える影響 ・精神神経用剤の服薬指導ツールの作成とその評価 ・クロザリル[®]の導入経験と症例報告 ・統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査(2011年)～ 全国149施設の調査から ～ その1 	<p>村和枝、中川将人、加藤剛、井出光吉、長谷川 毅、宇野準二、本多智子、吉本孝、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、吉尾隆</p> <p>河野陽介、佐藤弘希、山本巖、伊藤徳子、古賀富美子、岡山善郎、三輪高市、三村絵美子、大森佐知子、池田倫子、丸山徹</p> <p>山本巖、河野陽介、佐藤弘希、伊藤徳子、古賀富美子、岡山善郎、三輪高市、三村絵美子、大森佐知子、池田倫子、丸山徹</p> <p>Junji Uno, Tsuyoshi Kato, Takeshi Hasegawa, Masahiro Kurosawa, Kenta Umeda, Takaichi Miwa, Yukihiro Noda, Masami Tensho, Takashi Yoshio</p> <p>Yasuhiko Hashimoto, Junji Uno, Takaichi Miwa, Masaaki Kurihara, Hiroaki Tanifuji, Masami Tensho</p> <p>長谷川毅、宇野準二、加藤剛、杉村和枝、黒沢雅広、谷藤 弘淳、井出光吉、中川将人、本多智子、吉本孝、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、吉尾隆</p> <p>黒沢雅広、宇野準二、加藤剛、杉村和枝、谷藤弘淳、井出光吉、長谷川毅、中川将人、本多智子、吉本孝、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、吉尾隆</p> <p>黒肥地樹、三輪高市、西山浩介</p> <p>津留圭子、三輪高市、西山浩介</p> <p>野田敬子、三輪高市、西山浩介</p> <p>山本巖、佐藤弘希、河野陽介、伊藤徳子、角田将一、三輪高市、池田倫子、三村絵美子、大森佐知子、岡山善郎、丸山徹</p> <p>河野陽介、山本巖、三輪高市、佐藤弘希、伊藤徳子、角田将一、池田倫子、八重徹司、岡山善郎、丸山徹</p> <p>三輪高市、大森佐知子、水谷えりか、鍋島賢大、中野恵理、合志智親、花谷弘子、野田敬子、西山浩介、相澤明憲</p> <p>天正雅美、宇野準二、谷藤弘淳、加藤剛、杉村和枝、黒沢雅広、高橋結花、長谷川毅、中川将人、本</p>	<p>島</p> <p>第20回日本医療薬学会年会、2010、千葉</p> <p>第72回九州山口薬学大会、2010、山口</p> <p>CINP、2011、ザルツブルグ</p> <p>CINP、2011、ザルツブルグ</p> <p>第107回日本精神神経学会、2011、東京</p> <p>第107回日本精神神経学会、2011、東京</p> <p>第11回臨床試験とCRCのあり方を考える会議、2011、岡山</p> <p>第11回臨床試験とCRCのあり方を考える会議、2011、岡山</p> <p>第11回臨床試験とCRCのあり方を考える会議、2011、岡山</p> <p>第5回日本薬局学会学術総会、2011、</p> <p>第73回九州山口薬学大会、2011、沖縄</p> <p>第73回九州山口薬学大会、2011、沖縄</p> <p>第108回日本精神神経学会、2012、札幌</p>
--	---	---

<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査 (2011 年) ~ 全国 149 施設の調査から ~ その 2</p>	<p>多智子、吉本孝、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第 108 回日本精神神経学会、2012、札幌</p>
<p>・ Prescription Practice in Hospitalized Schizophrenia Patients in Japan: Nationwide Multiple-center Joint Studies on Prescriptions.</p>	<p>野田幸裕、宇野準二、杉村和枝、黒沢雅広、谷藤弘淳、高橋結花、長谷川毅、加藤 剛、中川将人、宮原佳希、本多智子、吉本孝、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、吉尾 隆</p>	<p>CINP (28 回国際神経精神薬理学会)、2012、ストックホルム</p>
<p>・ 保険薬局における統合失調症患者のベンゾジアゼピン系薬の処方実態調査</p>	<p>Junji Uno, Kenta Umeda, Takaichi Miwa, TsuYoshi Kato, Kazue Sugimura, Masahiro Kurosawa, Hiroaki Tanifuji, Mitsuyoshi Ide, Takeshi Hasegawa, Masato Nakagawa, Tomoko Honda, Takasi Yoshimoto, Yoshiki Miyahara, Kohei Kitagawa, Yu Shibata, Masami Tensho, Takashi Yoshio</p>	<p>第 74 回九州山口薬学大会、2012、福岡</p>
<p>・ 保険薬局における統合失調症患者の薬物治療に関する処方内容および抗パーキンソン病薬の使用状況調査</p>	<p>石川文佳、河野陽介、角田将一、佐藤弘希、三輪高市、伊藤徳子、志水綾子、池田倫子、岡山善郎、丸山徹</p>	<p>第 74 回九州山口薬学大会、2012、福岡</p>
<p>・ ミルタザピンの睡眠および鎮静に対する影響 ~ 臨床と基礎の両面からのアプローチ ~</p>	<p>角田将一、河野陽介、石川文佳、佐藤弘希、三輪高市、伊藤徳子、志水綾子、池田倫子、岡山善郎、丸山徹</p>	<p>日本臨床薬理学会、2012、沖縄</p>
<p>・ 統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査~全国調査その 1 ~</p>	<p>三輪高市、大森佐知子、三村絵美子、池田倫子、相澤明憲、宿輪ちあき、高濱和夫</p>	<p>第 109 回日本精神神経学会、2013、福岡</p>
<p>・ 統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査~全国調査その 2 ~</p>	<p>加藤剛、宇野準二、志田雅彦、黒沢雅広、谷藤弘淳、高橋結花、長谷川 毅、中川将人、本多智子、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第 109 回日本精神神経学会、2013、福岡</p>
<p>・ 統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査 (2013 年) ~全国調査から~その 1</p>	<p>志田雅彦、宇野準二、加藤剛、黒沢雅広、谷藤弘淳、高橋結花、長谷川 毅、中川将人、本多智子、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、三輪高市、柴田木綿、天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第 110 回日本精神神経学会、2014、横浜</p>
<p>・ 統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査 (2013 年) ~全国調査から~その 2</p>	<p>高橋結花、加藤剛、宇野準二、志田雅彦、黒沢雅広、谷藤弘淳、長谷川 毅、中川将人、本多智子、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、柴田木綿、高田憲一、三輪高市、天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第 110 回日本精神神経学会、2014、横浜</p>
<p>・ うつ病・抗うつ薬に対する薬剤師の意識調査</p>	<p>高田憲一、加藤剛、宇野準二、志田雅彦、黒沢雅広、谷藤弘淳、高橋結花、長谷川 毅、中川将人、本多智子、宮原佳希、梅田賢太、北川航平、柴田木綿、三輪高市、天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第 34 回日本社会精神医学会、2015、</p>
<p>・ うつ病・抗うつ薬に対する薬剤師の意識調査</p>	<p>中村友喜、辻亜里華、矢野靖恵、</p>	<p>第 34 回日本社会精神医学会、2015、</p>

<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2014年） ～全国127施設の調査から～その1</p>	<p>和田智仁、三輪高市 柴田木綿、宇野準二、志田雅彦、 黒沢雅広、谷藤弘淳、高橋結花、 加藤剛、長谷川 毅、中川将人、 本多智子、宮原佳希、梅田賢太、 北川航平、高田憲一、三輪高市、 天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>富山 第111回日本精神神経学会、2015、大 阪</p>
<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2014年） ～全国127施設の調査から～その2</p>	<p>黒沢雅広、宇野準二、志田雅彦、 谷藤弘淳、長谷川 毅、高橋結花、 加藤剛、中川将人、本多智子、宮 原佳希、梅田賢太、北川航平、柴 田木綿、高田憲一、三輪高市、天 正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第111回日本精神神経学会、2015、大 阪</p>
<p>・当センターにおける認知症治療薬に関する有害事象の検討</p>	<p>中村友喜、和田智仁、三輪高市、 矢下里美、森川将行</p>	<p>第1回日本医薬品安全性学会、2015、 福山</p>
<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2015年） ～全国106施設の調査から～その1</p>	<p>本多智子、宇野準二、北川航平、 志田雅彦、黒沢雅広、谷藤弘淳、 加藤剛、高橋結花、長谷川 毅、 中川将人、宮原佳希、梅田賢太、 柴田木綿、高田憲一、三輪高市、 天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第112回日本精神神経学会、2016、幕 張</p>
<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2015年） ～全国106施設の調査から～その2</p>	<p>北川航平、宇野準二、本多智子、 志田雅彦、黒沢雅広、谷藤弘淳、 加藤剛、高橋結花、長谷川 毅、 中川将人、宮原佳希、梅田賢太、 柴田木綿、高田憲一、三輪高市、 天正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>第112回日本精神神経学会、2016、幕 張</p>
<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2016年） ～ 全国127施設の調査から～</p>	<p>高田 憲一、宇野 準二、長谷川 毅、中川 将人、志田 雅彦、黒沢 雅広、谷藤 弘淳、加藤 剛、高橋 結花、佐藤 康一、宮原 佳希、 本多 智子、梅田 賢太、北川 航 平、柴田 木綿、三輪 高市、天正 雅美、野田 幸裕、吉尾 隆</p>	<p>日本精神神経学会、2017、名古屋</p>
<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査(2016年) ～全国105施設の調査から～</p>	<p>宇野準二、長谷川毅、中川将人、 志田雅彦、黒沢雅広、谷藤弘淳、 加藤剛、高橋結花、宮原佳希、本 多智子、梅田賢太、北川航平、柴 田木綿、高田憲一、三輪高市、天 正雅美、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2017、東京</p>
<p>・統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2017年） ～ 全国107施設の調査から～</p>	<p>天正雅美、黒沢雅広、宇野準二、 加藤剛、梅田賢太、高田憲一、三 輪 高市、野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2018、名古屋</p>
<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2017年） その2～全国107施設の入院患者と77施設の外来患者との比 較検討～</p>	<p>黒沢雅広、天正雅美、宇野準二、 加藤剛、梅田賢太、高田憲一、野 田幸裕、三輪高市、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2018、名古屋</p>
<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2018年） ～ 全国調査から～その1</p>	<p>高橋結花、柴田木綿、佐藤康一、 宇野準二、加藤剛、梅田賢太、 高田憲一、三輪高市、天正雅美、 野田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2019、仙台</p>
<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2020年） その1</p>	<p>鈴木貴子、高田憲一、北川航平、 佐藤康一、宇野準二、天正雅美、 加藤剛、梅田賢太、三輪高市、野</p>	<p>日本精神薬学会、2021、福岡</p>

<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2020年） その2</p>	<p>田幸裕、吉尾隆 高田憲一、北川航平、鈴木貴子、 佐藤康一、宇野準二、天正雅美、 加藤剛、梅田賢太、三輪高市、野 田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2021、福岡</p>
<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2020年） その3－クロザピンの処方状況について－</p>	<p>北川航平、鈴木貴子、佐藤康一、 高田憲一、宇野準二、天正雅美、 加藤剛、梅田賢太、三輪高市、野 田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2021、福岡</p>
<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2020年） その4 ～入院患者と外来患者のBMI比較検討～</p>	<p>佐藤康一、鈴木貴子、高田憲一、 北川航平、宇野準二、天正雅美、 加藤剛、梅田賢太、三輪高市、野 田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2021、福岡</p>
<p>統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2020年） その6－入院患者病棟種別ごとの処方実態について－</p>	<p>天正雅美、鈴木貴子、佐藤康一、 高田憲一、北川航平、宇野準二、 加藤剛、梅田賢太、三輪高市、野 田幸裕、吉尾隆</p>	<p>日本精神薬学会、2021、福岡</p>
<p>当院におけるアルツハイマー型認知症と糖尿病の合併状況お よび糖尿病による認知機能への影響に関する調査研究 Cognitive function investigative research on the Alzheimer's disease complications with diabetes.</p>	<p>佐藤雅也，和田智仁，坂晋，藤田 康平，三輪高市 MASAYA SATO, TOMOHITO WADA, SUSUMU BAN, KOUHEI FUJITA, TAKAICHI MIWA</p>	<p>日本精神薬学会、2021、福岡 ACCP、2021、名古屋</p>
<p>(その他)</p>		